

2025年9月のてがたんは、雨予報のため中止となりました。下見の観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは10月11日(土)で、テーマは「タケってどんな植物?」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は10月5日(日)です。

9月の観察コースと内容(下見)

- コース：鳥の博物館→香取神社→水生植物園→手賀沼遊歩道→鳥の博物館
- 観察日時/天気：2025年9月7日(日) 10:00~12:00 / 晴れ
- 市民スタッフ：4名(石原直子、伊東茂子、小泉伸夫、古澤紀元)
- 鳥博職員：2名(大山絢子、脇水徳之)

— 観察した生き物の記録 —

【鳥類】カモ科：カルガモ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、コサギ、ダイサギ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ツバメ科：ツバメ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ
家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【爬虫類】ミシシippアカミミガメ

【両生類】ヒガシニホンアマガエル/ヌマガエル

【クモ類】オニグモ、コガネグモ、ナガコガネグモ、ジョロウグモ

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ、アジアイトトンボ、ウスバキトンボ、ギンヤンマ、コシアキトンボ、シオカラトンボ/バッタ目：オンブバッタ、カワラバッタ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴ、ウスイロササキリ、カネタタキ、キンヒバリ、エンマコオロギ、オカメコオロギ/カメムシ目：アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、キマダラカメムシ、ヨコヅナサシガメ、チュウゴクアミガサハゴロモ/コウチュウ目：ナナホシテントウ、ナミテントウ、ドウガネブイブイ、コアオハナムグリ、シロテンハナムグリ、クロウリハムシ、チビタマムシの仲間、マメハンミョウ/チョウ目：アオスジアゲハ、ナミアゲハ、イチモンジセセリ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ムラサキシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、クロシタシャチホコ(幼虫)、モンクロシャチホコ(幼虫)、イラガの仲間(繭)/ハエ目：アメリカミズアブ、ウシアブ、ミナミヒメヒラタアブ/ハチ目：オオスズメバチ、コガタスズメバチ、キンケハラナガツチバチ、ヒメハラナガツチバチ

【草の花】イラクサ科：カラムシ/ヒユ科：ヒカゲイノコヅチ/タデ科：イヌタデ、オオイヌタデ、ハナタデ/マメ科：クズ、ツルマメ、ヤブマメ、ヤハズソウ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ/トウダイグサ科：コニシキソウ/ブドウ科：ヤブガラシ/カタバミ科：カタバミ/ナス科：イヌホオズキ/ヒルガオ科：ヒルガオ/アゼナ科：ウリクサ/キツネノマゴ科：キツネノマゴ/アカネ科：ヘクソカズラ/キク科：アメリカタカサブロウ、オニタビラコ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、ブタナ、ヒメムカシヨモギ/ツククサ科：ツククサ、マルバツククサ/イネ科：エノコログサ、オオエノコログサ、コツブキンエノコロ、オヒシバ、メヒシバ、セイバンモロコシ/ヒガンバナ科：ニラ

【木の花】アオイ科：ムクゲ/クマツヅラ科：クサギ/スイカズラ科：アベリア/ミソハギ科：サルスベリ/マメ科：ヤマハギ

2025年9月の観察アルバム



今回のテーマは「生きるための毒 part2」でした。2024年7月のpart1では、幅広い生き物をもつ毒について取り上げました。

今回はたがたんコースで見られる植物と昆虫をもつ毒について着目しました。下見では、強い毒を持つマメハンミョウやハチの仲間、食べ過ぎると体に悪い成分を持つ植物を確認できました。



今月の案内人
小泉 伸夫



今月の案内人
石原 直子



①斜面林で咲いていたクズの花。毒はなく、抗肥満作用の漢方に利用される。



②住宅街の電線にとまっていたヒヨドリ。換羽期のため頭の部分が禿げて見える。



③アオモンイトトンボの交尾姿勢。先頭のオスがメスの頭をはさんで交尾する。



④水田で見かけたヌマガエル。体の表面に弱い毒をもつため、触るときは注意。

歩いたルートと観察した生き物



⑤葉の上を移動していたマメハンミョウ。足からカンタリジンを含む毒液を出す。



⑥サクラの葉を集団で食べていたモンクロシャチホコの幼虫。毛に毒をもたない。



⑦お灸のような形をしたヘクソカズラの花。インドールを含み、悪臭を放つ。



⑧ヒメハラナグツチバチ。コガネムシの幼虫を毒で麻痺させて卵を産みつける。

今月の鳥 ドングリと鳥

ドングリには、渋み成分のタンニンが含まれています。タンニンを大量に摂取すると胃腸炎を引き起こす場合があります。実を一度に多く食べられないようにする植物の防御機能として働いています。

カケスやキツツキ、ヤマガラなどの鳥は、樹洞や樹の幹、落ち葉の下などにドングリを貯蓄し、餌の少ない冬季に少しずつ食べて利用しています。

鳥に食べられずに地中に残されたドングリは、次の春に発芽し新たな樹へと成長していきます。ドングリを貯蓄する鳥は、植物の分布域の拡散を助ける役割も担っています。



マテバシイの実



ドングリを貯蓄することで知られるカケス